



題 言

東京みなと祭を記念して

昭和七年十月一日、我等の帝都は隣接町村を併合して市域を擴張し、膨大なる大東京を實現した。次に來るべきものは海に伸びる東京でなければならぬ。

東京市の海への發展は實に明治十三年以來の懸案で、爾來多くの先覺によつて樹立された數次の築港計畫も、幾多の變遷を経、漸く修築の端緒を爲し、隅田川口改良工事は、明治三十九年起工以來三十年の歲月と三千萬の巨費とを以て茲に完く竣工を告げた。

東京港は大正十二年の大震災を契機として目醒ましき發展を續けつゝあつたが、今や本工事の完成により我國港灣中第四の優位を占め、その存在は既に何人の間にも認識せらるゝ處となつた。

勿論、港灣としての設備の點より云ふならば、東京港はそれを今後に俟たねばならぬ多くのものを持つであらう、されど、五百萬市民が消費する貨物を他港の力を借らずして直接自港に於て荷役する事を可能ならしめた此工事の完成は大いに慶祝せざるを得ない。茲に東京全市を擧げての竣工祝賀みなと祭に和し、東京港特輯號を刊行する所以である。

右端より竹芝町棧橋・中央部は目黒町棧橋・左方は芝浦岸壁・最左端に五番臺場が見られる。月島埋立地よりの遠望。